

＜総括＞

試験時間	90 分	総解答字数	1100 字
------	------	-------	--------

森悠一郎「事実としての人の等級 (?) ——『上級国民』論と評価の階層」を用い、一部の特権的な階層とそれ以外の人々との間に進行していると考えられている序列化（人の等級化）について平等論の観点から考えることを求める出題である。2019 年に起きた東京・池袋での高齢男性による母子死亡事故以来しばしば取り上げられている「上級国民」論のような、メディアで話題となっている問題について文中の論点を用いて考察することを求めるという、名古屋大学法学部によくみられる出題である。

今回の出題は、課題文が昨年の 9 ページから 12 ページへと長くなり、解答字数についても 1000 字から 1100 字に増加している。さらに、長大な課題文で筆者が展開している議論を丁寧にたどりながら、具体的な状況を想定して論述することを求めるという高度な能力が要求されていることから、昨年に比べて難化しているといえる。

＜課題文の分析＞

大問番号	
内 容 (主題)	人の等級化と「上級国民」論
出 典 (作者)	森悠一郎「事実としての人の等級 (?) ——『上級国民』論と評価の階層」 (飯田高ほか編『リーガル・ラディカリズム——法の限界を根源から問う』有斐閣、2023 年)
長短・難易等 前年比較	長短 (短い・やや短い・変化なし・やや長い・ 長い) 難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・ 難化)

＜大問分析＞

大問	出題形式	テーマ・課題文の内容	設問	設問形式	解答 字数	コメント (設問内容・論述ポイントなど)
	課題 文型	学部系統的	問 1	説明	250 字	筆者が近代以降の法社会の建前と「等級化」との関係をどのようにとらえ、その中で「上級国民」論をどのように位置付けているかを説明することを求める出題。課題文の冒頭部分 (I の部分) に、法的な序列化が解消されているにもかかわらず特権的な階層とそれ以外の人々との間に事実上の序列化が進行している状況について議論を展開していることから、こうした部分を軸に解答をまとめればよい。

※出題形式は「テーマ・課題文 (英文を含む場合は付記する)・図表・その他」

※テーマ・課題文の内容は「一般教養的・学部系統的・教科論述的・その他」

※設問形式は「論述・要約・説明・分析・その他」

大問	出題形式	テーマ・課題文の内容	設問	設問形式	解答 字数	コメント（設問内容・論述ポイントなど）
	課題 文型	学部系統的	問2	説明	250字	筆者は課題文で、評価の階層が純然たるメリトクラシー（能力主義）の下であっても、なぜ問題となっていると論じているかを説明することが求められている。筆者は課題文のⅡの部分で社会階層と評価の階層、メリトクラシーの問題を取り上げ、次のⅢでは評価の階層をどう扱うかという点に議論を進めている。そのため、本設問ではⅡの部分を中心に解答をまとめることが求められる。
			問3	論述	500～ 600字	下線部「上向きの侮蔑」と呼ばれる実践には看過しがたい問題がある」について、「上向きの侮蔑」と呼ばれる実践にはどのような問題があるかを、具体例を挙げながら自分の考えを論じることが求められている。障がい者と健常者の関係性やノマドワーカーへの評価、弱者男性に対するジェンダー論的評価などの具体的な事例を取り上げ、これらをめぐる議論に含まれる「上向きの侮蔑」が集団間の敵意を煽って社会の分断を助長する可能性や実際の格差の解消につながらないおそれなどについて論じることができよう。

<答案作成上のポイント・学習対策等>

名古屋大学法学部の小論文は、民主主義や個人の自由や権利、格差をめぐる議論など、社会のあり方そのものをめぐる議論を取り上げ、現代社会や政治経済といった公民分野の教科書に取り上げられている項目と、実際の政治や経済における出来事とがどのように結びついているのかを考えさせる出題が続いている。そのため、日ごろから新聞やニュース解説などをチェックして、自らの社会問題に対する感覚を養っておく必要がある。

また、名古屋大学法学部の課題文は今回のリベラリズムにおける平等論のように法・政治といった領域にとどまらず、社会・経済的な内容を取り上げる場合もある。そのための学習対策としては、法・政治学系統だけでなく、社会学や経済学系統の過去の出題例にも目を向けることが必要であろう。